

2008年11月25日

東京農工大学大学院 永井 正夫 教授

運転教習ドライブレコーダを活用した新しい教習所運転教育に向けた取り組み

概要： 東京農工大学の永井正夫教授の研究グループは、科学技術振興機構（JST）の戦略的創造研究推進事業（CREST）において、ドライバの運転状況を詳細に記録するドライブレコーダを開発しています。ドライブレコーダを自動車教習所の教習車に搭載し、路上教習をおこなうことで、同乗する教習指導員の指導ポイントにたいし、受講生自身が自分の運転を客観的に振り返って納得することができます。本研究グループでは、このような振り返り学習に特化した、運転教習ドライブレコーダを矢崎計器（株）と共同開発しました。また、ドライブレコーダを活用した運転教習方法の開発にむけ、むさし小金井自動車教習所の協力のもとデータ収集実験を開始しました。

説明： 近年、安全・安心な交通社会の構築という観点から、自動車事故を未然に防ぐ予防安全技術の開発が積極的に進められています。しかしながら、交通事故予防にもっとも効果があるのは、個々のドライバの安全遵守意識の向上であるということは、今後も変わりありません。そのため、ドライバの安全遵守意識を高める運転教育の質の向上が望まれます。

現在の自動車教習所での路上教習は、同乗する教習指導員が受講生の運転を評価し、指導となるポイントを口頭で指摘しています。しかしながら、指摘を受けた受講者は、そのポイントを振り返って詳しくみることができません。一方、ドライブレコーダで収集された映像があれば、あとで客観的に自分の運転を振り返ることができ、教習指導員の指導ポイントに対する納得もえられます。このように、客観的に自分の運転の至らない点がわかるということは、初心ドライバだけでなく、高齢ドライバ、あるいは日常の運転でつい悪いくせが身に付いてしまった熟練ドライバなど、幅広い層にたいして有効です。また、教習指導員同士で、お互いの指導方法を確認することもできるため、指導方法について切磋琢磨することで、教習サービスのさらなる質の向上も期待できます。

東京農工大学永井正夫教授の研究グループでは、教習指導員の指導ポイントにあわせて、運転中の詳しい映像、音声、速度、地図上の位置情報などを詳細記録できる「運転教習ドライブレコーダ」を、矢崎計器（株）と共同で試作しました。共同試作したドライブレコーダの有効性を検討するために、むさし小金井自動車教習所と協力し、ペーパードライバ講習への活用に向けた走行実験をおこなっています。走行実験では、実際に路上教習におけるデータを収集し、教習指導員の指導ポイントとあわせて運転データを記録しています。

現在は、実験によって、ドライブレコーダの使い勝手をよくするためのさらなる機能改善や、記録データを使った実際の教習方法の具体的な内容の検討をおこなっています。ここ1年以内の製品化をめざし、ドライブレコーダの記録データを活用した、ペーパードライバや企業ドライバ向けの運転講習カリキュラムへの導入を考えています。このような、運転教習ドライブレコーダを活用した質の高い運転教育サービスが確立されれば、安全・安心な交通社会の実現へとつながっていくものと期待されます。